

THANKS REPORT 2022

2022年度 年次報告書



こども、は、みんな。
みんな、の、こども。
一緒に生きよう。



認定NPO法人 フードバンク北九州
ライフアゲイン

TEL 093-672-5347 FAX 093-671-2395

受付／月～金 10:00～16:00（祝日はお休み）

E-mail info@fbkitaq.net

〒805-0019

福岡県北九州市八幡東区中央2丁目14-17

2023年8月発行



認定NPO法人 フードバンク北九州
ライフアゲイン

ビジョン 私たちが実現したい社会

私たちは、「すべての子どもたちが大切」とされる社会の実現をめざしています。

ミッション そのために私たちが果たす役割

生まれ育った環境のために、満たされた食事ができない 十分な教育を受けられない 寂しい思いをしている子どもたちを北九州からゼロにする

ミッション実現のために取り組んだこと

ホームスタート
ライフアゲイン
家庭訪問型子育て支援

つきだテラス
TOMONY
地域の拠点

フードサポート
北九州
「食」からつながる生活相談会

理事長あいさつ

理事長 原田 昌樹

私たちのビジョンは「すべての子どもたちが大切とされる社会の実現」です。私は、駅前の夜回りや里親等の養育支援に携わる中で、さまざまな環境の子どもたちが、差別や偏見の対象にされたり、いじめや親からの虐待を受けたり、大人の誘惑による薬物や性暴力に巻き込まれていく現場にぶつかってきました。一人ひとりがもっと大切にされなければ、と悔しい思いを重ねてきました。

経済的に貧しくても、障がいを抱えていても、肌の色や国籍が違っても、運動ができなくても、学力が低くても、容姿がどうであっても、その子のいのちの価値は寸分も違わないと言えます。私たちはもう一度原点に戻って、いのちを見つめ直す必要があるのではないでしょうか。一人の例外もなく「生まれてきたことに価値があり、生きている、ただそれだけでかけがえのない存在なのだ」と言うことができます。生産性や効率が叫ばれる中、人間のいのちだけはそれらの潮流に巻き込まれ、押し流させてはいけないと強く思っています。「生まれてきてよかった」と誰もが実感できる瞬間を、私たちは創造したいと心から願っています。

2022年度は、ライフアゲインのそのような思いが、具体的に一步踏み出せた年であったと言えます。一番目は乳幼児期の養育環境を安定させる活動を開始したことです。この時期の愛着形成は、子どもの心の発達、人間関係に大きく影響すると言われています。この大切な時期に親の子育てに寄り添い、子どもとの愛着関係が築けるようサポートする活動がスタートできました。

二番目は「つきだテラスTOMONY」をまちづくりの拠点として整備できました。食品提供を取り入れて信頼関係・絆を結んでいく場、地域の人々の居場所、交流の場として元櫻田児童館が生まれ変わりました。

三番目は食品配布を通してまちの住民と出会い、困りごと相談の機会を提供し、つながっていこうとする「フードサポート北九州」を実施したことです。孤立化、単身化、少子高齢化、人口減少など、地域社会には課題が山積していますが、その現況を克服するために、北九州市と支援団体による実行委員会の事業として「フードサポート北九州」が動き始めました。

今年2023年度、ライフアゲインは10周年を迎えました。2022年度から動き始めたこれらの具体的な活動が、子どもたちの未来を創造する力となってもらいたいと願っています。

当団体の活動に賛同し、いっしょに歩んで下さっている皆さま、これからも山あり谷ありだと思いますが、ビジョンの実現を目指してぜひとも一緒に進んでいきましょう。

ライフアゲインの見取り図

～子どもたちの笑顔のために～



ライフアゲインCafé

2023年6月24日 つきだテラスTOMONY

ライフアゲインは2023年に設立から10周年を迎えた。立ち上げ当初から支えていただいた皆さまや会員の皆さまをライフアゲインcaféにご招待。10周年と一緒に祝いし、楽しいひと時を過ごしてもらおうと軽食を用意して感謝の集いを開催しました。10年の年表を前にして、それぞれが関わった年代ごとに思い出を語っていました。感極まって涙される方もおられ、10年の重みが伝わり、感慨深く、皆さま聞き入っていました。日々の

功績を称え、感謝状を理事長より一人ひとりお渡し、参加者全員にも10周年の感謝を込めたメッセージカードと記念品を差し上げました。懐かしい人との再会もあり、思い出話に花を咲かせ、和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。また原田理事長、陶山事務局長、袋野さんにも手作りのキャンディーレイをプレゼントし、会場から感謝の気持ちを伝えました。

これまでありがとうございます！そしてこれからもどうぞよろしくお願いします！



アンケートの声から

- みなさんの素敵な笑顔が、10年間が素敵だったことを伝えてくださいました
- これからも走り続けてください。私も、私の出来ることで応援していきます
- 思いがけず感謝状までいただき驚いています。私たちの知らないところでこれだけのたくさんの方たちの支えがあることを知り感激しました
- みんなで力を合わせて目標に向かってがんばって進んで行きましょう

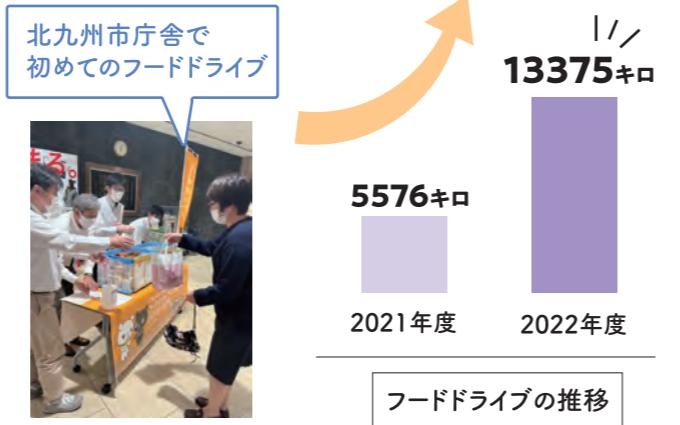
フードバンク事業

集める・届ける・もったいないを
笑顔につなげる

私たちはまだ食べられるのに、商品として扱えない食品や寄贈された食品を集め、子ども食堂、社会福祉施設、生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体や個人など、食品を必要とされている方々にお届けし、食品ロスとお腹を空かせている人を減らす事業をすすめています。いただいた食品は倉庫で適切な温度で管理し、食品の状態、賞味期限を確認してお渡ししています。

●フードドライブ開催

家庭から発生するフードロスを削減し、食品として活かしていく取り組みです。SDGsの社会的認知度の広がりにより、回収量が増加しています。常設の回収拠点も増加し、企業の独自の物流ルートを利用して、食品を集めています。また、就労サポート支援事業団体「ワークネット北九州」の利用者の皆さんにボランティアとして定期的に仕分け作業を行っています。そのことが、仕分け作業のスピードアップと就労支援にもつながっています。



●お寺からも食品が届いています

お寺にお供えされるさまざまな食べ物を、仏さまの「おさがり」として、「おすそわけ」という形で寄贈してもらっています。市内のお寺からお盆などの心のこもったお供えがたくさん届いています。



八幡東区永明寺
松崎住職

食べ物を必要としている人たちに提供する取り組みへの理解も深まって、お供え物は傷みやすい生菓子が減り、子どもたちが喜ぶお菓子や飲料などが増えています。仕分け作業もみんなで行っています。



●バナナが喜ばれています

2014年から継続しているバナナの配布の取組み。(株)ドールから寄贈されたバナナを月2回、福岡市箱崎まで取りに行って施設などにお渡ししています。2022年度後半からは、北九州青果株式会社、有限会社兵庫青果運輸のご協力で、箱崎から搬送してもらっています。2022年度は総量3,800キロ。子どもたちが大好きなバナナは大好評です。



2014年 初めての
バナナ配布

●賞味期限確認チーム会

2022年4月から、月1回、中央町の倉庫で、寄贈された食品を賞味期限内にお渡しできるように、食品ひとつひとつの賞味期限の表示を確認しています。フードバンクで預かっている食品の2次廃棄の削減につとめています。



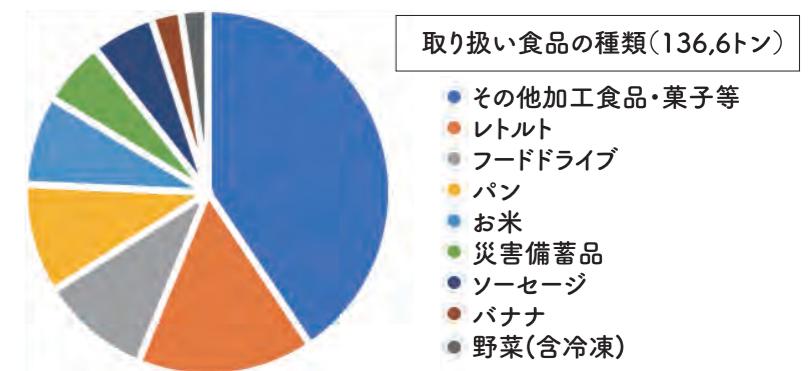
●企業、団体、組織から 食品が届きます

食品の提供企業、団体は昨年度より増加しています。

さまざまな企業から余剰食品や外装が破れている、印字ミスなど誤がある食品、寄贈品などいろいろな種類の食品が届きます。野菜や喜ばれているお米も届きます。また、防災用非常食品の入れ替え時の寄贈も増えました。急な休校や学級閉鎖による学校給食協会からの寄贈もあります。

つきだテラスに新たに設置した大型冷凍庫、冷蔵庫により、これまで以上に多くの食品をお渡しすることができます。

	2021年度実績	2022年度実績
食品取扱量	110.1トン	136.6トン
食品提供企業数（個人、寺以外）	173社・団体	188社・団体
食品受け取り施設	137箇所	145箇所
子育世帯食料支援数（期末数）	105世帯	94世帯
子育世帯支援総数	303世帯	468世帯



message うれしいおいしさを...



近年、働き方改革やSDGsが叫ばれており、弊社においても、かたちを変えて対応できる『しなやかな』組織を目指しているところです。SDGsにおける目標12「つくる責任 つかう責任」は、わたしたちにとって特に関わりの深いものです。企業としてどう取り組んで行くべきか考え、出来ることから実施して評価を行っております。

弊社は米菓の製造小売りを行う会社です。毎月9の付く日を「久助の日」とし、製造過程で出た割れや欠けのある商品をお得な価格でご提供してまいりました。数年前、フードバンク様のご活動とともに、従来と異なるかたちで食品ロスの低減を目指せることを

知り、それ以来、弊社が少しでも力になれていることを嬉しく思います。また、夏休みや冬休みになれば子どもたちは喜ぶばかり思っておりましたが、学校給食が無いために厳しい生活を送る家庭があることを知りました。国の改善は元より、わたしたちの支援が少しでもお役に立てることは大変うれしく、弊社の求めている『うれしいおいしさ』をお届けするという使命をいっそう強く感じております。フードバンク様の活動を支援させていただく中で、SDGsの目標1「貧困差をなくそう」にも関わっていることに気付き、取り組みをより有意義なものとして再認識することができました。

これからも微力ながら、もち吉の出来るご協力・ご支援を、精一杯させていただきます。



回収拠点に食品を取りに行く、集まった食品を計量、記録して、倉庫で整理して保管する。お届けする作業の流れのなかでボランティアさんの役割は大事です。

●フードパントリー開催

組合の西港支所をお借りして、登録している社会福祉団体にまとめて食品をお渡しすることができています。広い場所での仕分けや受け渡しの作業を皆さんで協力して行ってもらっているおかげで、短時間で効率的に終わることができます。



message



子ども食堂くすくす 浦濱 恵介 様

コロナ禍になり、子ども食堂はみんなで集まって食事することが難しくなり、フードパントリーを始めました。エフコープ西港支所さんでの配布会は多くの団体が参加し、寄贈していただいた調味料や飲料などを、ひとり親家庭や困窮世帯などへ配布してきました。コロナ禍で給料が減ったり、物価高騰で食材の価格が高くなったりしているため、受け取りに来る保護者からは、大変助かっているとの声が聞かれます。企業と私たちを繋いでいただいているライフアゲインさんには、とても感謝しています。

ファミリーサポート事業

つなぐ子育て世帯in北九州

北九州市内全区に設置された「いのちをつなぐネットワーク」や「子ども家庭相談コーナー」などと連携して、支援を必要とされている子育て世帯に対して食品の配布を行い、継続的にさまざまな支援につなげています。

●ライフアゲインLINE公式アカウント

登録者へのアンケートの結果をもとに、それぞれのニーズに合った定期的な情報提供を23回発信しました。

2月に実施したアンケートより

- 支援を希望していますが、どのような支援があるのかわかりません
- 自分が体調悪いときに何もできない。身内も近くにいなくて困っている
- 高校進学の資金、保育園が休園になって仕事に行けない期間があり、食べ物とお金に困っています
- 経済的支援や相談する人がいない



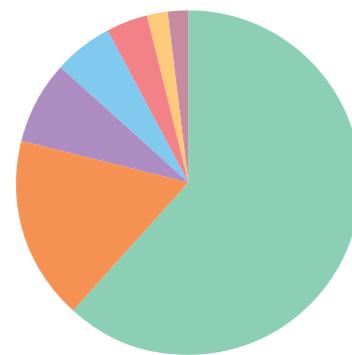
●LINE公式アカウント登録者アンケートを行いました

ライフアゲインが2022年2月18日～20日にかけて実施したアンケートより

(対象:LINE公式アカウント登録者1881名、回答者数:535名)

家計の中で、優先して充実させたいと思っている項目をひとつ選んでください。

- 食費
- 教育費
- 日用品費
- 保険・貯蓄費
- 住居費
- 衣類費
- レジャー費



「充実させたい」=「充実していない、足らない」と思っている項目

●北州市委託事業「困難を抱える女性に寄り添う緊急支援事業」

「一人じゃないって伝えたい」～行政と民間の助け合いの輪をつなぐシンポジウム～

11月16日開催

行政、民間、支援を受けた人、それぞれの立場、役割の話に共感しながら問題点も感じた内容となり、連携の重要性を改めて考えさせられました。

アンケートより

- 久保田さんの子供に対する向き合い方がとてもかっこいいと思いました。また今回で行政の役割、民間の役割について改めて考えることができました
- 行政の窓口として福祉総合課のような部署があればよいと思う。ファーストステップとして話を聞いて(記録しても)専門部署につなぐという工夫をしてほしい

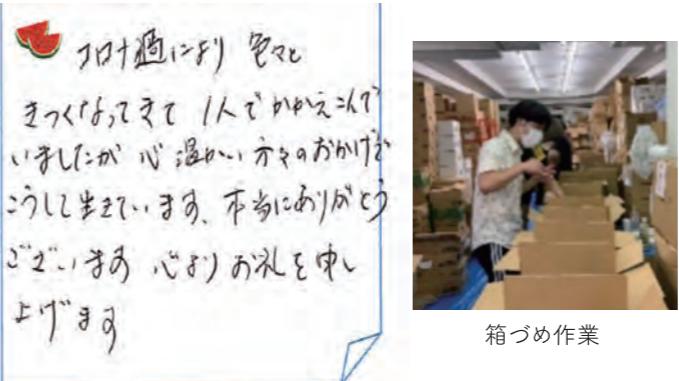


久保田 美佳さんのお話

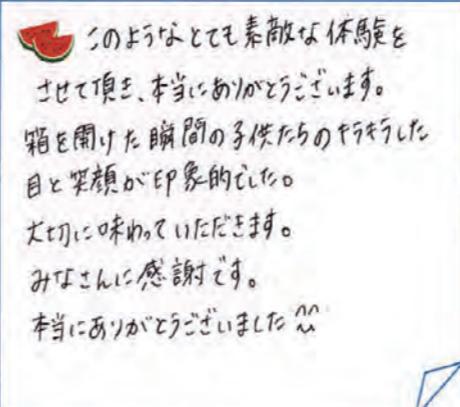
●給食がなくなる長期休み中、少しでも子どもたちの食生活の支えとなり、親子との信頼関係が築けるように、夏休み、冬休みそれぞれ子育て世帯1000世帯に応援食品のボックスをお届けしました。

夏休みお腹いっぱい大作戦

受け取り拠点として、サンキュードラッグ10店舗、エフコープ生活協同組合4店舗、お寺などの協力により、食品ボックスを手渡しすることができました。

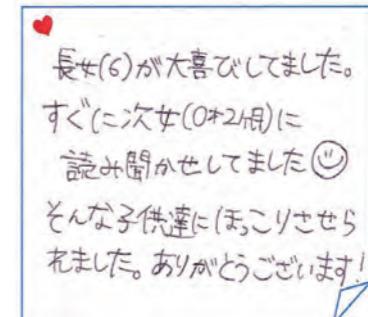


箱づめ作業



絵本のクリスマスプレゼント

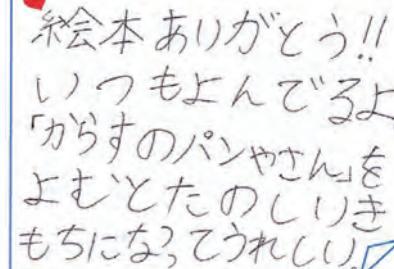
NPO法人チャリティーサンタの協力により、780冊の絵本を子育て世帯にサンタさんからプレゼント。サンタさんからの英語のクリスマスカードに日本語訳を添えました。自宅のポストに届いたうれしいクリスマスプレゼントです。



長女(6)が大喜びしていました。
すぐ(に次女(0歳2ヶ月)に
読み聞かせしてました^笑)
そんな子供達にほこりさせられました。ありがとうございます!

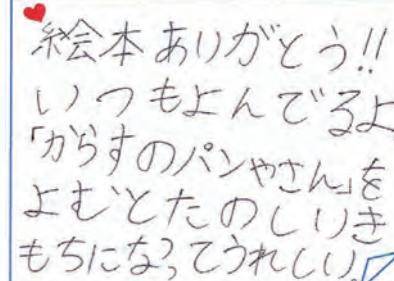
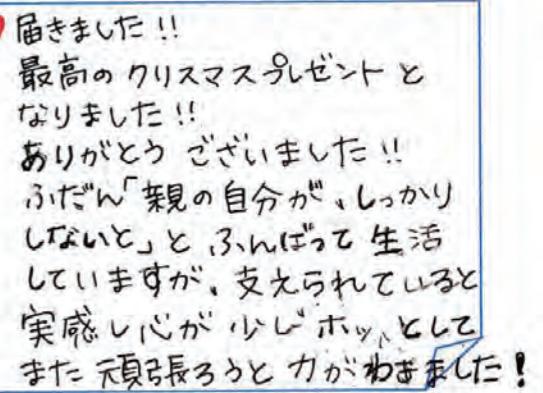


食品の箱づめ、配達、絵本の発送作業などたくさんのボランティアに関わっていただきました。1000個の食品ボックスを作るのは大変ですが、箱を開けた時の子どもたちの笑顔と喜びの声が浮かび、疲れが吹き飛びます。



冬休みお腹いっぱい大作戦

クラウドファンディング目標達成！109人の方から1,105,000円、温かい支援が届きました。食品ボックスは配達し、その送料とお菓子の購入にあてました。



●つきだテラスTOMONY

これまでの経済格差に加えて、コロナ禍でさらに厳しい状況に追い込まれた人たちが、共助の力を強めることで新しい生活を築いていけるように、11月16日、元櫻田児童館跡地に新しいライフアゲインの施設が誕生しました。令和3年度補正予算WAM助成金、休眠預金等助成金を活用して実現しました。1階の倉庫は大型冷凍庫、冷蔵庫を設置し、フードバンク事業の食品置き場として活用しています。また、夏・冬休みお腹いっぱい大作戦の箱づめ作業もここで行っています。2階ホール、和室「ゆったりルーム」は地域の方々にも利用していただいている。市内子ども食堂の中核拠点としての役割もあり、キッチンを整備し、「みんな食堂」は3月にスタートしました。つきだマルシェも開催し、野菜やスイーツを販売して、楽しい一日となりました。SNS講座、キッズマニー講座、司法書士による法律相談会、健和会による健康相談会も定期的に開催しています。食品ロスを活用した食品配布、食料支援を入り口にさまざまな相談の機会を提供し包括的支援につなげています。だれもが孤立しない地域、ともに助け合える地域づくりのために、「TOMONY」(トモニー、共に、友に)の名前がぴったりな場所になりつつあります。「笑い声が聞こえる場所になってうれしい」と地域の方からも喜ばれています。



大型冷凍、冷蔵庫



キッズコーナー

つきだテラス
TOMONY



●個人支援（つきだテラスで）

約100世帯の方々に3~6か月の間、月1~2回、継続支援を行っています。家族構成、子どもの年齢などに合わせて選んだ食品をお渡ししています。食品を取りに来たついでに、子どもやママの服を選ぶのも楽しみとなりました。子どもたちはお気に入りの絵本を一冊選んでいます。食品をお渡しする場所のそばに、ちょっとお茶を飲めるコーナーをつくり、気軽におしゃべりできるようにしています。



つきだテラス
TOMONY



●つながり支援チーム

食料支援が必要な方に食品をお渡しするお手伝いや、お話を伺ったりしてコミュニケーションをとりながら、顔の見えるつながりづくりを行っています。そして、自立できるようにサポートしています。必要に応じてさまざまな支援を行っている行政機関、民間の専門機関につながり役割も果たしているボランティアの活動です。

●ホームスタート・ライフアゲイン

乳幼児期の子育て家庭を支援する新規事業「家庭訪問型子育て支援・ホームスタート」をつきだテラスTOMONYで立ち上げました。オーガナイザーと37時間の研修を受けたホームビジター(ボランティア)が家庭を訪問して傾聴し、一緒に家事や育児を行う協働の活動です。子どもたちと子育て世帯に笑顔を届けます。利用対象は未就学児のいる家庭で、無料で利用することができます。2023年4月から本格的に動き出しました。



●おもいやりポケットプロジェクト

北九州市から受託している「令和4年度困難を抱える女性に寄り添う緊急支援事業」の一環として「生理の貧困問題」について取り組んでいます。女子トイレ内で自由に利用できるように生理用品の入ったボックス(ポケット)を設置し、また、寄付もできるようにしています。「助けてほしい」という人たちと「誰かの役に立ちたい」という人たちの「おもい」をつなげ、「おもいやりの気持ち」が感じられるようにと「おもいやりポケットプロジェクト」と名付けました。ボックス設置場所はエフコープ志井店・沼店、北九州市立八幡図書館です。



●フードサポート北九州「食からつながる生活相談会」

孤独・孤立対策、困窮者対策として、コロナ禍や物価高騰で生活が厳しい世帯に食品配布を行いました。この活動はNPOや北九州市、社協などの相談支援につなげるきっかけづくりの場として開催されました。キッズコーナーもあり、会場は明るい雰囲気です。福祉、家計、法律関連などの専門家による無料相談が受けられるブースでは個別に相談が行われていました。北九州市と市内の支援活動を行っているNPOなどとの連携も強まり、大きな反響がありました。ライフアゲイン・抱撲・子ども食堂ネットワークなどによる実行委員会ですすめている、北九州市の事業です。

	利用者数	相談件数
第1回 12月18日	276人	21件
第2回 3月19日	850人	32件



★拠点型フードサポート
ウエルとばたで2回実施されました。



★地域交流型フードサポート

北九州市社会福祉協議会へ事業委託され、2月から3月にかけて、若松区の高須地区、八幡東区、小倉北区の3地域でフードサポートが実施されました。地域でのつながりづくりのきっかけとなっています。



八幡東区(つきだテラスTOMONY)
でのフードサポート

地域子ども支援事業

つながり続ける地域で。
みんなで子育て

子どもの貧困、食の連鎖を断ち切り、「すべての子どもたちが大切とされる社会」を実現するためにつながりづくりに力を注いでいます。

●子ども食堂、地域食堂の運営

	開催日	開催回数	参加延べ人数
尾倉っ子ホーム	第2、第4水	18回	817人
ちゅうおうまち食楽福亭	第1土	8回	659人
みんな食堂TOMONY（3月スタート）	第3土	1回	38人

尾倉っ子ホーム



皿倉小学校区で案内し、尾倉市民センターで開催しています。勉強したり、遊んだり、愛情たっぷり詰まったおいしい夕食を食べ、賑やかで楽しそうな笑い声が絶えません。小学校の先生も参加され、「尾倉っ子ファミリー」ができています。

ちゅうおうまち食楽福亭 (たらふくてい)



八幡小学校、中央中学校区で案内し、八幡中央区商店街のアーケード広場で開催しています。雨が降っても大丈夫です！地域の企業や店舗の協力で、いろいろな企画が用意され、昼食をみんなで食べて楽しい第1土曜日になっています。

みんな食堂 TOMONY



子どもたちから高齢者まで、多世代の交流の場になっています。昼食ができるまで子どもたちは和室で遊んで、お腹をすかせて、おいしいお昼ご飯をみんなで食べます。新しい地域交流が作られ、楽しい時を過ごしています。食事の後のクイズ大会は大盛り上がり。

皿倉小学校区、八幡小学校校区でのフードパンツリーを開催し、応援食品の配布を行いました。食品の値上げが多い時期、子育て世帯にはとても喜ばれていました。



子ども食堂開催の事前準備から後片付けまで、運営はボランティアに支えられています。ある時は先生、ある時はお兄ちゃん、お姉ちゃん、あるときは食堂のおばちゃん。みなさん優しいまなざしです。マスクの下はみんな笑顔。子どもたちもお手伝いに一生懸命です。



つながり続ける地域で。
みんなで子育て

●わがまち大家族プロジェクト

八幡中央区商店街で子どもたちを中心とした大きな家族のような関係を作ろうとこのプロジェクトが始まりました。「ただいまいえる街、おかえり商店街」がテーマです。地域をつなぐプラットホームとして「ちゅうおうまち食楽福亭」を位置づけ、「地域で、みんなで子育て」できる地域モデルを作ろうと活動しています。毎月1回『わがまち大家族プロジェクト』ミーティングを行い、商店街を舞台に八幡東区域のまちづくり活動について話し合い、実践につなげています。



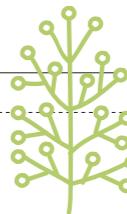
●無料学習塾「ステップアップ塾ライフアゲイン」・無料自習室「STUDY CAMP」



東京にあるステップアップ塾(NPO法人維新隊ユネスコクラブ)と連携して、4月に学生講師11名、生徒15人で動き出しました。教室では対面指導のほか、東京本部と合同でオンライン指導も行われています。先生は勉強をさせる人ではなく、学びの伴走者として子どもたちに寄り添い、自ら学ぶ心と自己肯定感を育てるこ

高校生講師の声

参加したきっかけは学校での募集です。自分が教えるというのは新しい経験で、先生の気持ちが少しあわるようになります。相手にわかりやすい授業を心がけると物事をさまざまな方向から考えることができ、新しい発見がたくさんあり、自分自身も成長している気がします。



●君はかけがえのない宝物展2022

ライフアゲインの活動を通してつながっている施設や団体の子どもたち、地域の子どもたちが、自分たちの夢や大好きなことなどをたくさんのお絵かき作品に表現してくれました。私たちの地域にとって、「子どもたちはかけがえのない宝物」であるという思いを込めて、北九州市内3ヶ所(三井住友信託銀行北九州支店、九州電力北九州支店、八幡中央区商店街アーケード)でリレー展示を行いました。作品に添えられた子どもたちのメッセージは見る人に作品とともに元気を届けてくれました。



ウクライナの国旗の色を使いひまわりを描きました。早くウクライナの青い空の下に大輪のひまわりが咲くことを祈っています。

高3男子



題材や絵の配置、色使いに悩みながら絵を完成させていく過程で、子どもたちは一つの作品を描きあげるということが難しくも充実した体験であると感じることができたようです

双葉学園みのり 三船里佳施設長

災害発生時の 総合的支援事業

ウクライナ支援活動

2022年2月、ウクライナの人々は突然日常の穏やかなくらしを奪われてしまいました。故郷から追われ、隣国のポーランドに避難して来たウクライナの人々をポーランドでは暖かく迎えいれ、支援を続けています。ウクライナの子どもたちに再び笑顔が戻ることを願って、ライフアゲインの学習支援でポーランドからオンラインで英会話講師として現在も支えて下さっているアニア先生を通して、ウクライナ支援活動のための募金活動を始めました。2022年度は約105万円の寄付が集まり、送金することができました。現在も募金活動継続中です。



アニア先生

日本の皆さんからいただいた全てのご支援に心より感謝申し上げます。遠く離れた子どもたちやこの戦争の犠牲者の幸せを気にかけてくださる方は驚くべきことです。あなた方からの信じられないほどの寛大さのおかげで、困っているウクライナの人々への必要な物資を購入して運びます。



普及啓発事業

広めて、知ってもらう

●講演活動

コロナの影響を受けて講演回数は半減しましたが、SDGs教育の一環として、周望学舎などの生涯教育、社会教育としての講演依頼が増えました。

●スタディーツアー

SDGs教育の広がりから、県外からもライフアゲインに修学旅行の受入依頼が増えています。理事長の話を聞き、倉庫を見学し、フードドライブの回収食品の仕分け作業を体験し、自分たちができることを考えました。「これからは訳アリ品を買います!」「買いつぎたらダメなので気をつけます」「賞味期限が切れても食べます!」「スーパーでは手前から食品を取ります」などなど、みんな楽しく、真剣に学んでくれました。実施校は6校でした。



京都からの修学旅行の高校生

●イベントの協賛

北九州ロックフェスティバル2022



このイベントはSDGsをスローガンに掲げています。会場のミクニワールドスタジアムではフードドライブを行い、133キロの食品が集まりました。また、飲食ブースで売り切れなかった食品を出口付近にまとめ、値引き販売をして全てを買ってもらい、食品ロスをほぼゼロにすることに協力できました。



食品回収中。

北九州マラソン2023

企業から提供された「おもてなしフード」を用意する7ヶ所のステーションをランナーが走り去った後に、余った食品の回収にライフアゲインが協力しました。最終的にはバナナ約150本、メロンパン約1300個、フィッシュソーセージ約1300本を、子ども食堂や自立支援施設、放課後等デイサービスなどに提供しました。北九州マラソンでの食品ロスはほぼゼロとなりました。



動画 「明日もいっしょに」

●ライフアゲイン広報動画『明日もいっしょに』

ライフアゲインの活動を貫いている考え方、本質を分かりやすく伝えるために動画『明日もいっしょに』を作成し、YouTubeでアップしました。活動の現場の一人ひとりの声をつなぎ、ライフアゲインがなにをめざしているのかが伝わるものができるようになりました。

●古本による寄付

「つなぐ書店」と連携した古本による寄付は、継続しています。定期的に古本を回収して送ってくださる企業や、断捨離・終活で多くの本を送ってくださる個人の方など、合わせて35名の参加があり、古本寄贈による寄付額は約14万円でした。



●北九州市より表彰

北九州市より市制60周年にあたり、循環型社会形成に寄与したとして、表彰されました。

●ホームページやSNS、活動紹介のちらし作成、冊子を発行して情報発信



